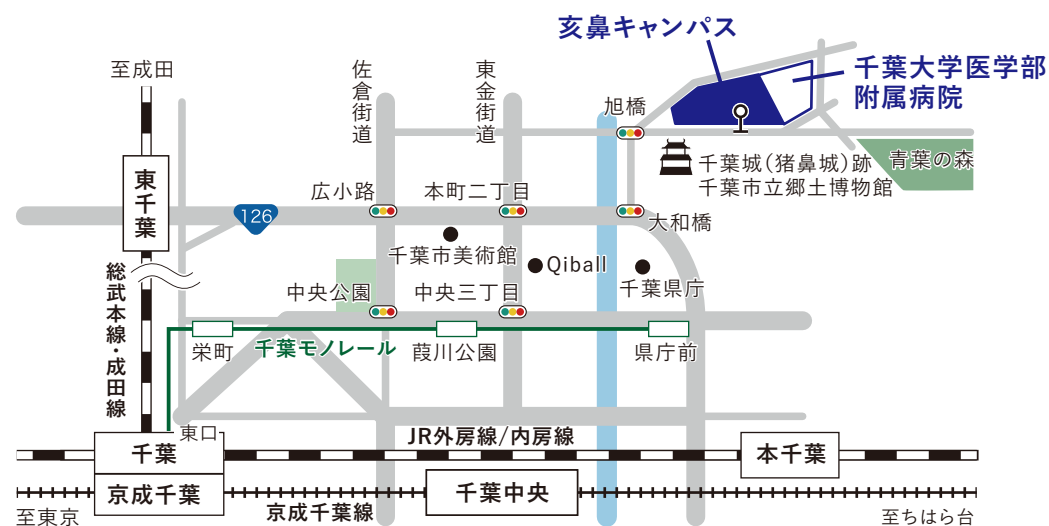
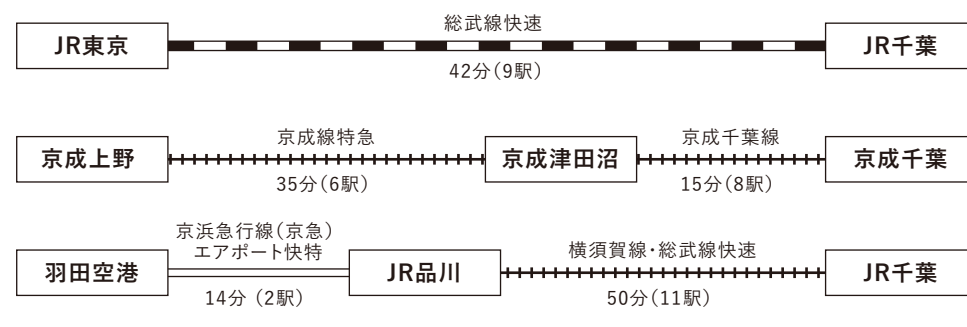


入学試験の詳細については、
ホームページ上の入試概要(募集要項等)をご覧ください。



JR総武線 千葉駅下車
東口7番バス乗り場より「千葉大学病院」または「千葉大学病院経由南矢作」行きバス乗車
「千葉大看護学部入口」下車



[資料請求受付窓口]

千葉大学亥鼻地区事務部学務課 大学院係

〒260-8672 千葉市中央区亥鼻1丁目8番1号

TEL: 043-226-2450 / FAX: 043-226-2382 <https://www.n.chiba-u.jp/>

E-mail: tae5667@office.chiba-u.jp

202503

千葉大学大学院
看護学研究科

2026



CHIBA UNIVERSITY



Graduate School of Nursing
School of Nursing



看護の仕事は 太陽の沈んだのちも 灯の光をたよりにつづけられる
今ここに 健康の守り手の歩みを 力強くすすめるための礎が
亥鼻の地に据えられた 千葉大学の校草のもと 県花・菜の花に かこまれて
八番目の星として またたかんとする看護学部
灯の絶ゆることなく さらに明々と 燃えさからんことを希いつつ…

看護学研究科

博士前期課程（40名）

博士後期課程（15名）

看護学専攻

看護学コース

看護実践学 コース

看護管理学プログラム
高度実践看護学プログラム
特定看護学プログラム

看護学専攻

看護学研究科長より皆様へ



看護学研究科長

増島 麻里子

日本最大規模の大学院で看護学の知の創出と社会実装を実現する

千葉大学大学院看護学研究科は、博士前期課程・後期課程を有する看護系大学が約30%ある中で、日本における最大規模の大学院生を有する大学院です。

全国から集う大学院生は、看護系大学学部生のストレート進学者から、豊富な臨床経験を有する看護管理者まで、非常に幅広い層の看護専門職者から構成されています。多様かつ多くの大学院生が在籍するからこそ、同じ科目で相互に学び合うことによって、大学院生自身が新たな気づきや学びの原動力を得ており、これは本大学院で学ぶ利点といえます。

カリキュラムの最大の特徴は、学際性と国際性を重視し、看護の変革を目指す点です。学際性とは、複数の学問領域の視点から横断的に物事を捉えたり、追究することです。変化する社会要請に伴い、看護専門職者が対峙する健康課題は、看護学単独、あるいは看護学のある専門領域のみでは解決が難しくなりつつあります。看護学研究者が、横断的かつ学際的に連携することは、より効果的で発展的な看護を可能にします。千葉大学では、総合大学の強みをいかし、他学問領域との連携による学際性の涵養を基盤とし、看護学における新たな理論やモデルを創出する教育研究者、エビデンスに基づき臨床現場を改革する高度な看護実践者を育成することをミッションとしています。

また、千葉大学では全員留学を推奨しています。本大学院では、看護専門職者として社会人を継続する大学院生が遠隔地からも履修できる科目を整備しており、その1つとしてグローバルな視野を拡げ、国際性の向上を目指すプログラムも用意しています。

本大学院で真摯に学びたいと考える皆様が、看護学における知の創出と社会実装を実現できるよう、看護実践・教育・研究の往還を重視する教育研究者一同で皆様のチャレンジをお待ちしております。



看護学専攻

— 博士前期課程・博士後期課程 —

Master of Nursing Science & Doctor of Philosophy(Nursing)

博士前期課程カリキュラム

研究、教育、実践の知の往還を促進することで看護学の発展に寄与できる能力を獲得するために、以下の3つのモジュールから構成される共通基盤科目を、コースやプログラムを超えて学びます。

◆研究学術モジュール

特別研究、課題研究において必要となる研究能力を涵養する。

◆実装モジュール

患者・利用者の価値と最適な研究知見、看護師の実践能力を統合させ、患者・利用者・地域によって最善の看護ケアを組織的に提供するために必要な態度、知識、技術を獲得する。

◆実践モジュール

自己の看護職者としての高度実践能力の基礎を育成しつつ、今後の看護学の発展に必要な研究シーズを検討する能力を育成する。

これらの共通基盤科目を学んだうえで、各コースやプログラム別に専門科目、演習・実習、特別研究／課題研究に取り組みます。

博士前期課程履修および修士論文作成スケジュール

1 年次

- 授業履修 長期履修申請(4月)
- 特定行為研修のうち必要な区分別研修(4～8月)
- 看護研究演習 看護管理学演習(8～2月)
- 特定看護演習・実習(8～2月)
- 専門看護師のための看護学演習・実習(8～3月)
- 修士論文研究計画書作成
- 倫理審査
- データ収集開始、分析

2年次

- データ収集、分析、修士論文執筆、授業履修
- 修士論文提出(12月)
- 修士論文審査(12月～1月)
- 修士論文発表会(2月)
- 修士(看護学)授与(3月)

看護学コース

修了要件：30単位以上

人材育成像

社会の要請に応える新領域の研究を理論開発の面から推進すると共に、看護学と看護実践の往還を具現化する研究力を有する教育・研究者の育成
学際的な視点をもつ理論やモデルを創出し検証する研究者

入学者受入れ方針 (アドミッション・ポリシー)

看護学と看護実践に
価値を置く

普遍的教養のもとに
看護学の体系的
理解がある

研究活動に
専心できる

学位授与の方針

自由・自立
の精神

地球規模的な視点を
含む多層な視座からの
社会と人々との
関わり合い

専門的な
知識・技術・技能

高い問題
解決能力

自ら専門領域における研究課題を見出し、その課題の探究および知識基盤の発展に必要な基礎的研究能力に基づいて、主体的に行動できる。

保健医療福祉システムの変化や、多様化・国際化した看護活動の必要性をふまえ、また自己の国際経験を生かし、看護支援方法の研究・開発を行うことができる。

専門領域における研究課題を探究するために必要な基礎的研究能力および、幅広い視野から柔軟に思考できる能力を修得する。
新たな価値体系の創造力・指導力に関する基礎的理論や知識を修得し、活用できる。

専門領域の看護実践に必要な看護の諸理論、方法に関する知識を修得し、対象者の問題に応じて適切な看護を他者と協調・協働しながら実践できる。

学修成果の 厳格な評価

学修成果については、事前にシラバス等で提示する各授業目標への到達度によって、厳格かつ公正な評価を行う。授業科目の特性に応じて、以下のような適切な評価方法によって成績評価を行う。
講義科目では、試験、レポート、リアクションペーパー等でその達成度を評価する。
実験・実習・演習科目では、試験、レポート、口頭発表、実技等でその達成度を評価する。
学位論文は、審査基準と審査方法をあらかじめ明示し、それに基づき審査体制を整備したうえで、論文審査および最終試験を厳格かつ公平に行う。

研究:12単位

必修

看護実践に必要な諸理論、知識、方法を修得し、問題を解決する能力を涵養する

- 理論開発特別研究(12)

演習:6単位

必修

専門分野の深い学識を、問題解決に活用するための実践的考察

- 看護研究演習(6)

専門科目:主専攻の2単位

選択必修

社会や人々を多層な視座からとらえ、自己の専門分野における研究開発の必要性を検討する

- 先端実践看護学Ⅰ(1)
- 先端実践看護学Ⅱ(1)
- 文化創成看護学Ⅰ(1)
- 文化創成看護学Ⅱ(1)
- 生活創成看護学Ⅰ(1)
- 生活創成看護学Ⅱ(1)

共通基盤科目：研究学術モジュール5単位、実装モジュール1単位、実践モジュール4単位を含む10単位以上

研究学術モジュール

- 看護学研究Ⅰ(必修1)
- 看護学研究Ⅱ(必修1)
- 看護学研究Ⅲ(必修1)
- 看護学研究Ⅳ(1)
- アカデミックライティング(1)

実装モジュール

- 看護革新力の基礎(必修1)
- EBP実装(1)
- プロジェクト・マネジメント(1)
- 看護管理学(2)
- 看護教育学(2)
- 専門職連携基礎(1)
- 専門職連携教育論(1)
- 専門職連携実践論(1)
- 看護情報管理学(1)

実践モジュール

- 看護理論(1)
- 看護倫理(1)
- e-learning・演習臨床推論(1)
- ナーシング・フィジカル・アセスメント(2)
- 臨床病態学(2)
- 臨床薬理学(2)
- e-learning・演習フィジカルアセスメント(1)
- e-learning・演習臨床病態生理学(1)
- e-learning・演習疾病臨床病態学(1)
- e-learning・演習臨床薬理学(1)
- コンサルテーション(1)
- 看護専門職論(1)
- 組織マネジメント論(1)
- e-learning・医療安全学(1)
- 災害マネジメント論(1)
- 災害時専門職連携演習(1)
- 災害看護活動論(復旧・復興)(1)
- 地域包括ケア論(1)
- 看護政策(1)
- エンドオブライフケア学1(1)
- エンドオブライフケア学2(1)
- 専門職連携実践1(1)
- 専門職連携実践2(1)
- Cultural Competency and Cultural Humility(1)
- 社会課題解決基礎(1)
- 社会課題解決応用(1)
- 専門職間社会課題解決演習(2)
- リビングヘルス(1)
- 地域ヘルスケア(1)
- Advanced Global Health and Nursing(2)

看護実践学コース
看護管理学プログラム

修了要件：30単位以上

人材育成像

課題やニーズの分析および看護理論やモデルの実践的検証に必要な研究力、看護実践の質向上や組織変革に必要なリーダーシップを発揮する能力を備えた高度実践者・看護管理者の育成
組織変革のためのリーダーシップ：エビデンスに基づき臨床の場を改革する看護管理者

入学者受入れ方針（アドミッション・ポリシー）

大学院での学修に
強い意欲がある

修了までの期間、所属機関から
学業と実践を両立することを
認められた現役の看護管理者

実践の場を
改革する意欲がある

学位授与の方針

自由・自立
の精神

地球規模的な視点を
含む多層な視座からの
社会と人々との
関わり合い

専門的な
知識・技術・技能

高い問題
解決能力

看護管理に携わる看護職者として、自ら組織の課題を見出し、課題解決に向けた問題解決能力、実践的に検証する能力に基づいて、主体的に行動できる。

保健医療福祉システムの変化や、医療の高度化、多様化・国際化した看護を俯瞰し、自己の国際経験を活かして変革的に行動する能力を修得している。

専門的な知識・技術・技能を活かし、柔軟な思考をもって文献などの情報を活用して、職場の課題解決のために、方策・評価方法を示すことができる。

自組織の課題解決に向けてモデルや理論を活用して系統的かつ論理的に課題の背景を分析し、実現可能な目的・目標を設定した上での課題解決に導く方策の策定、評価・検証に取り組むための研究能力を修得している。自組織の課題解決に向けて倫理的な配慮を行い所属組織の合意を得て、問題解決にあたることができる。

学修成果の
厳格な評価

学修成果については、事前にシラバス等で提示する各授業目標への到達度によって、厳格かつ公正な評価を行う。授業科目の特性に応じて、以下のような適切な評価方法によって成績評価を行う。
講義科目では、試験、レポート、リアクションペーパー等でその達成度を評価する。
実験・実習・演習科目では、試験、レポート、口頭発表、実技等でその達成度を評価する。
学位論文は、審査基準と審査方法をあらかじめ明示し、それに基づき審査体制を整備したうえで、論文審査および最終試験を厳格かつ公平に行う。

看護実践学コース
高度実践看護学プログラム

修了要件：54単位以上

人材育成像

課題やニーズの分析および看護理論やモデルの実践的検証に必要な研究力、看護実践の質向上や組織変革に必要なリーダーシップを発揮する能力を備えた高度実践者・看護管理者の育成
エビデンスに基づくケア改善のリーダーシップ：エビデンスに基づき臨床の場を改革する高度実践看護師

入学者受入れ方針（アドミッション・ポリシー）

看護学と看護実践に
価値を置く

ケア改善に向けた
幅広く深い学識のもとに、
高度な看護実践能力を身につける
資質と意欲がある

高度実践看護師として
実践の場を
改革する意欲がある

学位授与の方針

自由・自立
の精神

地球規模的な視点を
含む多層な視座からの
社会と人々との
関わり合い

専門的な
知識・技術・技能

高い問題
解決能力

自ら専門領域における研究課題を見出し、その課題の探究および知識基盤の発展に必要な高度な看護実践能力に基づいて、主体的に行動できる。

保健医療福祉システムの変化や、多様化・国際化した看護活動の必要性をふまえ、また自己の国際経験を生かし、倫理的問題解決の調整を行うことができる。

専門領域における研究課題を探究するために必要な基礎的研究能力および、幅広い視野から柔軟に思考できる能力を修得する。
新たな価値体系の創造力・指導力に関する基礎的理論や知識を修得し、活用できる。

専門領域の看護実践に必要な看護の諸理論、方法に関する知識を修得し、対象者の問題に応じて適切な看護を他者と協調・協働しながら実践できる。

学修成果の
厳格な評価

学修成果については、事前にシラバス等で提示する各授業目標への到達度によって、厳格かつ公正な評価を行う。授業科目の特性に応じて、以下のような適切な評価方法によって成績評価を行う。
講義科目では、試験、レポート、リアクションペーパー等でその達成度を評価する。
実験・実習・演習科目では、試験、レポート、口頭発表、実技等でその達成度を評価する。
学位論文は、審査基準と審査方法をあらかじめ明示し、それに基づき審査体制を整備したうえで、論文審査および最終試験を厳格かつ公平に行う。

研究：12単位

必修

自組織の課題を解決するためのプロジェクト型研究を行うことで高度な探究能力を涵養する
●看護管理課題研究（12）

演習：6単位

必修

職場の課題解決のための情報活用や解決能力を修得する
●看護管理学演習（6）

専門科目：主専攻の2単位

選択必修

保健医療システムの変化や、医療の高度化、多様化、国際化した看護について深い学識を修得する
●先端実践看護管理学Ⅰ（1）
●先端実践看護管理学Ⅱ（1）
●文化創成看護管理学Ⅰ（1）
●文化創成看護管理学Ⅱ（1）
●生活創成看護管理学Ⅰ（1）
●生活創成看護管理学Ⅱ（1）

共通基盤科目：研究学術モジュール4単位、実装モジュール4単位、実践モジュール2単位を含む10単位以上

研究学術モジュール

●看護学研究Ⅰ（必修1）
●看護学研究Ⅱ（必修1）
●看護学研究Ⅲ（必修1）
●看護学研究Ⅳ（1）
●アカデミックライティング（1）

実装モジュール

●看護革新力の基礎（必修1）
●EBP実装（1）
●プロジェクト・マネジメント（必修1）
●看護管理学（2）
●看護教育学（2）
●専門職連携基礎（1）
●専門職連携教育論（1）
●専門職連携実践論（1）
●看護情報管理学（1）

実践モジュール

●看護理論（1）
●看護倫理（1）
●e-learning・演習臨床推論（1）
●ナッシング・フィジカル・アセスメント（2）
●臨床病態学（2）
●臨床薬理学（2）
●e-learning・演習フィジカルアセスメント（1）
●e-learning・演習臨床病態生理学（1）
●e-learning・演習疾病臨床病態学（1）
●e-learning・演習臨床薬理学（1）
●コンサルテーション（1）
●看護専門職論（1）
●組織マネジメント論（1）
●e-learning・医療安全学（1）
●災害マネジメント論（1）
●災害時専門職連携演習（1）
●災害看護活動論（復旧・復興）（1）
●地域包括ケア論（1）
●看護政策（1）
●エンドオブライフケア学1（1）
●エンドオブライフケア学2（1）
●専門職連携実践1（1）
●専門職連携実践2（1）
●Cultural Competency and Cultural Humility（1）
●社会課題解決基礎（1）
●社会課題解決応用（1）
●専門職間社会課題解決演習（2）
●リビングヘルス（1）
●地域ヘルスケア（1）
●Advanced Global Health and Nursing（2）

研究：12単位

必修

高度実践を行う際にエビデンスを活用するだけでなく、自らエビデンスを生み出す問題解決能力を涵養する
●専門看護特別研究（12）

演習・実習：14単位

必修

複雑な健康問題をもつ対象にケアとキューを統合し役割を担う能力を修得する
●看護学実習Ⅰ-Ⅲ（10）
●看護学演習（4）

専門科目：主専攻の10単位

選択必修

保健医療福祉のシステムの変化や高度実践に必要な役割を学び、ケアシステムの改善に向けた幅広く深い学識を修得する

小児看護専門看護師 10単位
●小児看護学A・B
●小児の病態・治療
●小児の保健・医療制度

がん看護専門看護師 10単位
●成人看護学A・B
●腫瘍医療ケアコーディネーション
●エンドオブライフケア看護学

共通基盤科目：研究学術モジュール3単位、実装モジュール5単位、実践モジュール10単位を含む18単位以上

研究学術モジュール

●看護学研究Ⅰ（必修1）
●看護学研究Ⅱ（必修1）
●看護学研究Ⅲ（必修1）
●看護学研究Ⅳ（1）
●アカデミックライティング（1）

実装モジュール

●看護革新力の基礎（必修1）
●EBP実装（1）
●プロジェクト・マネジメント（1）
●看護管理学（必修2）
●看護教育学（必修2）
●専門職連携基礎（1）
●専門職連携教育論（1）
●専門職連携実践論（1）
●看護情報管理学（1）

実践モジュール

●看護理論（必修1）
●看護倫理（必修1）
●e-learning・演習臨床推論（1）
●ナッシング・フィジカル・アセスメント（必修2）
●臨床病態学（必修2）
●臨床薬理学（必修2）
●e-learning・演習フィジカルアセスメント（1）
●e-learning・演習臨床病態生理学（1）
●e-learning・演習疾病臨床病態学（1）
●e-learning・演習臨床薬理学（1）
●コンサルテーション（必修1）
●看護専門職論（1）
●組織マネジメント論（1）
●e-learning・医療安全学（1）
●災害マネジメント論（1）
●災害時専門職連携演習（1）
●災害看護活動論（復旧・復興）（1）
●地域包括ケア論（1）
●看護政策（必修1）
●専門職連携実践1（1）
●専門職連携実践2（1）
●Cultural Competency and Cultural Humility（1）
●社会課題解決基礎（1）
●社会課題解決応用（1）
●専門職間社会課題解決演習（2）
●リビングヘルス（1）
●地域ヘルスケア（1）
●Advanced Global Health and Nursing（2）

看護実践学コース 特定看護学プログラム

修了要件：41単位以上

人材育成像

課題やニーズの分析および看護理論やモデルの実践的検証に必要な研究力、看護実践の質向上や組織変革に必要なリーダーシップを発揮する能力を備えた高度実践者・看護管理者の育成
根拠に基づくケア提供のためのクリニカルリーダーシップ：特定行為も実施しながら地域で暮らす人々の生活を支援し、看取りまでの看護を展開する高度実践者

入学者受入れ方針（アドミッション・ポリシー）

大学院での学修に
強い意欲がある

普遍的教養のもとに
看護学の体系的
理解がある

特定看護学の学修成果を
自組織及び看護実践の発展に
活用する意欲がある

学位授与の方針

自由・自立
の精神

地球規模的な視点を
含む多層な視点からの
社会と人々との
関わり合い

専門的な
知識・技術・技能

高い問題
解決能力

看護と特定行為を統合し、所属組織で質の高い医療を提供するための高度実践能力に基づいて、主体的に行動できる。

保健医療福祉システムの変化、医療の高度化、多様化、国際化に対応した特定行為と看護活動を開発検証し変革的に行動できる。

高度実践に必要な知識・技術・技能に関して根拠を吟味し、組織に実装するための、情報活用および課題解決ができる。

特定行為を看護と統合して提供し、必要に応じてあらたな特定行為を開発実装するために必要な諸理論、方法、知識を習得し、他の専門職と協働して問題解決にあたることができる。特定行為を看護と統合して提供しながら部署の診療ケアの改革を行い、そのアウトカムを検証し論述する研究能力を修得している。

学修成果の 厳格な評価

学修成果については、事前にシラバス等で提示する各授業目標への到達度によって、厳格かつ公正な評価を行う。授業科目の特性に応じて、以下のような適切な評価方法によって成績評価を行う。
講義科目では、試験、レポート、リアクションペーパー等でその達成度を評価する。
実験・実習・演習科目では、試験、レポート、口頭発表、実技等でその達成度を評価する。
学位論文は、審査基準と審査方法をあらかじめ明示し、それに基づき審査体制を整備したうえで、論文審査および最終試験を厳格かつ公平に行う。

研究：6単位

必修

自組織の課題や専門職連携の障壁の分析、特定行為の効果・検証を行う能力を涵養する

- 特定看護課題研究 (6)

演習・実習：10単位

必修

特定行為を看護と統合して提供するため専門職連携・問題解決能力を涵養する

- 特定看護実習 (6)
- 特定看護演習 (4)

専門科目：7単位

選択必修

特定行為を患者・利用者の価値を尊重して実践し、地域包括ケアシステムを推進するために必要となる深い学識と確かな技術を修得する

- 特定看護実践論Ⅰ (1)
- 特定看護実践論Ⅱ (1)
- 特定看護実践論Ⅲ (5)

共通基盤科目：研究学術モジュール3単位、実装モジュール5単位、実践モジュール10単位を含む18単位以上

研究学術モジュール

- 看護学研究Ⅰ (必修 1)
- 看護学研究Ⅱ (必修 1)
- 看護学研究Ⅲ (必修 1)
- 看護学研究Ⅳ (1)
- アカデミックライティング (1)

実装モジュール

- 看護革新力の基礎 (必修 1)
- EBP実装 (必修 1)
- プロジェクト・マネジメント (1)
- 看護管理学 (2)
- 看護教育学 (2)
- 専門職連携基礎 (1)
- 専門職連携教育論 (1)
- 専門職連携実践論 (1)
- 看護情報管理学 (1)

実践モジュール

- 看護理論 (1)
- 看護倫理 (1)
- e-learning・演習臨床推論 (必修 1)
- ナーシング・フィジカル・アセスメント (2)
- 臨床病態学 (2)
- 臨床薬理学 (2)
- e-learning・演習フィジカルアセスメント (必修 1)
- e-learning・演習臨床病態生理学 (必修 1)
- e-learning・演習疾病臨床病態学 (必修 1)
- e-learning・演習臨床薬理学 (必修 1)
- コンサルテーション (1)
- 看護専門職論 (1)
- 組織マネジメント論 (1)
- e-learning医療安全学 (必修 1)
- 災害マネジメント論 (1)
- 災害時専門職連携演習 (1)
- 災害看護活動論 (復旧・復興) (1)
- 地域包括ケア論 (必修 1)
- 看護政策 (1)
- エンドオブライフケア学1 (1)
- エンドオブライフケア学2 (1)
- 専門職連携実践1 (1)
- 専門職連携実践2 (1)
- Cultural Competency and Cultural Humility (1)
- 社会課題解決基礎 (1)
- 社会課題解決応用 (1)
- 専門職間社会課題解決演習 (2)
- リビングヘルス (1)
- 地域ヘルスケア (1)
- Advanced Global Health and Nursing (2)

博士後期課程 履修および 博士論文 作成スケジュール

3年次

- データ収集、分析、博士論文執筆、授業履修
- 博士論文審査 (12月)
- 博士論文発表会 (1月)
- 博士(看護学)授与 (3月)

2年次

- 授業履修
- 博士論文研究計画承認
- 倫理審査
- データ収集開始、分析

1年次

- 授業履修
- 博士論文研究計画書作成開始
- 主指導および副指導教員による複数指導体制による支援

博士後期課程

修了要件：12単位以上

人材育成像

社会の要請に応える新領域の研究を理論開発の面から推進すると共に、看護学と看護実践の往還を具現化する研究力を有する教育・研究者の育成。
学際的な視点をもつ理論やモデルを創出し検証する研究者。
本課程では、ナース・サイエンティストとして、看護学が貢献できる課題について、理論と実践の往還を重要視する立場に立った独創的な研究・開発を自立して推進できる研究能力の育成を目的とする。

入学者受入れ方針（アドミッション・ポリシー）

看護学の専門性に
根差した
課題を探究する

課題の探究にふさわしい
方法論および分析能力を
獲得できる

独創的かつ国際的な
研究の開拓に
意欲的に取り組む

学位授与の方針

自由・自立
の精神

自立した研究者として研究倫理を身につけ、看護学の学的基盤の発展に貢献する研究を遂行できる。

地球規模的な視点を含み
多層な視点からの
社会と人々との
関わり合い

自己の国際経験を生かし、学術的視点および国際的視点をふまえ、文化を考慮に入れた看護支援方法の研究・開発を行い、成果を学際的・国際的に発信すると共に、教養を高めて、持続的発展が可能な教育・人材育成に貢献できる。

専門的な
知識・技術・技能

看護学にかかわる創造性に富む高度な研究・開発能力と豊かな学識を身につけ、関連分野の研究グループに参加し、組織的な研究活動を推進できる。

高い問題
解決能力

看護学の専門性に根ざした課題に対し創造性豊かな研究・開発を行い、専門領域の情報・知識を統合し、多様な人々と協調・協働しながら健康社会を支える新たな知見や価値を創出することができる。

学修成果の 厳格な評価

学修成果については、事前にシラバス等で提示する各授業目標への到達度によって、厳格かつ公正な評価を行う。授業科目の特性に応じて、以下のような適切な評価方法によって成績評価を行う。
講義科目では、試験、レポート、リアクションペーパー等でその達成度を評価する。
実験・実習・演習科目では、試験、レポート、口頭発表、実技等でその達成度を評価する。
学位論文は、審査基準と審査方法をあらかじめ明示し、それに基づき審査体制を整備したうえで、論文審査および最終試験を厳格かつ公平に行う。

研究：5単位

必修

研究の進捗管理について、研究倫理に則り学生が主体的に取り組む能力を涵養する
●特別研究(5)

演習：2単位

必修

研究課題の設定、研究計画の策定について、研究倫理に則り学生が主体的に取り組む能力を涵養する
●特別演習(2)

専門科目：主専攻の2単位

選択必修

専門性の高い研究領域における新しい知見や価値の創造に向けた考察

- 先端実践看護学特論(2)
- 生活創成看護学特論(2)
- 文化創成看護学特論(2)

共通基盤科目：3単位以上 選択必修

- 学際研究Ⅰ（導入）（必修1）
- 看護革新力の展開（必修1）
- Academic Writing（必修1）
- グローバル演習（2）
- 学際研究Ⅱ（発展）（1）
- 看護イノベーション特論（1）
- Systematic Review（1）
- ジョブ型研究インターンシップ（1）

グローバルプログラムENGINEについて



千葉大学では、英語によるコミュニケーション力、発信力、表現力を身につけ、世界で活躍できるグローバルリーダーの育成を目指し、2020年入学生よりグローバルプログラムENGINE（Enhanced Network Global Innovative Education）を開始しました。ENGINEでは、①全員留学、②イングリッシュコミュニケーション、③スマートラーニングを柱に、様々な留学プログラムの準備とともに、留学担当教員や留学支援職員を配置し学生支援体制の強化、そして学習環境の充実につとめています。

入学後、原則としてすべての学生が修了までに1度の海外留学をおこないます。大学院学生の場合、研究科等の実施する留学プログラム、大学院共通教育科目として実施する留学プログラムや研究分野の特色に応じて計画された留学等による海外留学が必要です。看護学研究院のある亥鼻キャンパスにおいても、各学部・大学院で、ENGINE「全員留学」の単位として修得が可能な部局独自のプログラムと、その他の留学・研究・国際共修等のプログラムを準備しており、その内容や留学先は充実、拡大を続けています。

看護学研究科の大学院生は、ENGINEを活用し、これまでに連携大学との短期留学プログラムやオンライン留学プログラムの参加、国際学会における研究発表をおこなってきました。

詳しくは、千葉大学ENGINEサイト（リンク）や亥鼻地区留学支援サイト（リンク）をご参照ください。



千葉大学
ENGINEサイト



亥鼻地区
留学支援サイト



GRIPプログラムおよび博士前期課程副専攻 国際実践教育GRIPについて

GRIPプログラムとは「グローバル地域ケアIPE+創生人材の育成（Global & Regional Interprofessional Education Plus Program：GRIP Program）」です。令和4年度から文部科学省事業、「大学の世界展開力強化事業」に選定されています。

「どの国、どの地域であっても、自国でも他の国でも健康関連の課題に他の専門職とともに取り組み、文化的対応能力及び文化的謙虚さを基盤として、現場での最適解を導き出すことができる自律した組織人」を目指したプログラムであり、SDGsの開発目標3「すべての人に健康と福祉を」に貢献する、地域ケアを創生できる専門職を養成します。

令和5年度には、千葉大学全学の学部生・院生をチームとして海外の提携大学に派遣し、かつ、提携大学より学生を受け入れ、社会課題解決に取り組む専門職間社会課題解決演習Interprofessional Service Learning（ISL）（2単位・ENGINE該当）を開講しました。

看護学研究科の博士前期課程および後期課程の学生は、A、BのいずれかのパターンでGRIPプログラムを履修することができます。

Aパターン

ISLおよび指定6科目、計7科目8単位の修得
大学院国際実践教育GRIPの修了が
認定されます。

Bパターン

ISL2単位を履修・修了
課程修了要件の留学（ENGINE）として
認定されます。

令和6年度は、4学部および2研究科より10名の学生をインドへ、また3学部および1研究科より5名の学生をイギリスに派遣しました。さらに、新たにオーストラリアのモナシュ大学へ、2学部および2研究科より5名の学生を派遣しました。

令和7年度はこれら3大学へ、計30名の学生を派遣します。

Aパターン 副専攻修了認定

ISL

ENGINE該当

専門職間社会課題解決演習（2単位）
Interprofessional Service Learning



- | | |
|--|-----|
| 1. 専門職連携基礎 | 1単位 |
| 2. 専門職連携実践1 | 1単位 |
| 3. 専門職連携実践2 | 1単位 |
| 4. Cultural Competency and Cultural Humility | 1単位 |
| 5. 社会課題解決基礎 | 1単位 |
| 6. 社会課題解決応用 | 1単位 |

- ・ISL2単位に加え、上記の4単位以上を合わせて計6単位以上が認定されると、博士前期課程副専攻国際実践教育GRIPの修了認定
・博士前/後期課程での取得単位は合算可能

博士前期課程副専攻
国際実践教育GRIP

Bパターン 留学単位修得

ISL

ENGINE該当

専門職間社会課題解決演習（2単位）
Interprofessional Service Learning

ISL履修認定によりENGINE実施認定



5大学災害看護コンソーシアムによる科目提供

千葉大学、高知県立大学、兵庫県立大学、東京科学大学、日本赤十字看護大学の5大学は、令和3年度より、災害看護コンソーシアムを設置し、災害看護コンソーシアム科目を提供します。

履修希望者は、科目提供大学へ特別聴講生としての手続きが別途必要となります。博士前期課程及び博士後期課程在籍中に合計10単位以上履修し、一定の条件を満たした者は、博士後期課程修了時に、下記のいずれかを取得できます。

- ① 副専攻（災害看護学）の履修認定証
- ② 学位記 博士（看護学）への Disaster Nursing Global Leaderの付記

HSH特講IV-2
（赤十字と国際人道法）
_ 2単位
災害看護学特講I
_ 2単位

環境防災学
_ 1単位
災害看護活動論（準備期）
_ 1単位
感染症看護セミナー
_ 1単位

注）科目名称等は、変更となる場合があります

災害グローバル看護実践論
_ 2単位
災害看護フィールドワークI・II _ 各1単位

それぞれが強みとする
災害看護学科目と学際・国際系科目、
計3単位以上を提供し共有

5大学災害看護 コンソーシアム

国際活動の連携推進
社会貢献の協働推進
その他 学生交流など

災害マネジメント論
_ 1単位
災害看護活動論（復旧・復興）
_ 1単位
災害時専門職連携演習
_ 1単位

看護政策学特論
_ 1単位
災害看護学特論I
_ 2単位

履修モデル1（副専攻履修）
看護学専攻（看護学コース）
+コンソーシアム科目10単位 以上

前期課程 専門科目	コンソーシアム 科目 10単位以上 他大学院の4単位は、博士前期課程の選択科目[修了要件]とすることができる
前期課程 共通基礎科目	
前期課程 看護研究演習	
前期課程 特別研究	
後期課程 専門科目	
後期課程 共通基礎科目	
後期課程 特別演習	
後期課程 特別研究	

博士
（看護学）

副専攻（災害看護学）
履修認定証

履修モデル2（学位記DNGL付記）
特別研究（博士前期課程・博士後期課程）において災害看護に関する研究に取り組む
+コンソーシアム科目10単位以上

前期課程 専門科目	コンソーシアム 科目 10単位以上 他大学院の4単位は、博士前期課程の選択科目[修了要件]とすることができる
前期課程 共通基礎科目	
前期課程 看護研究演習	
前期課程 特別研究 （災害看護に関する研究）	
後期課程 専門科目	
後期課程 共通基礎科目	
後期課程 特別演習	
後期課程 特別研究 （災害看護に関する研究）	

博士（看護学）
Disaster Nursing Global Leader 付記

履修モデル3（学位記DNGL付記）
特別研究（博士後期課程）において災害看護に関する研究に取り組む
+コンソーシアム科目10単位以上

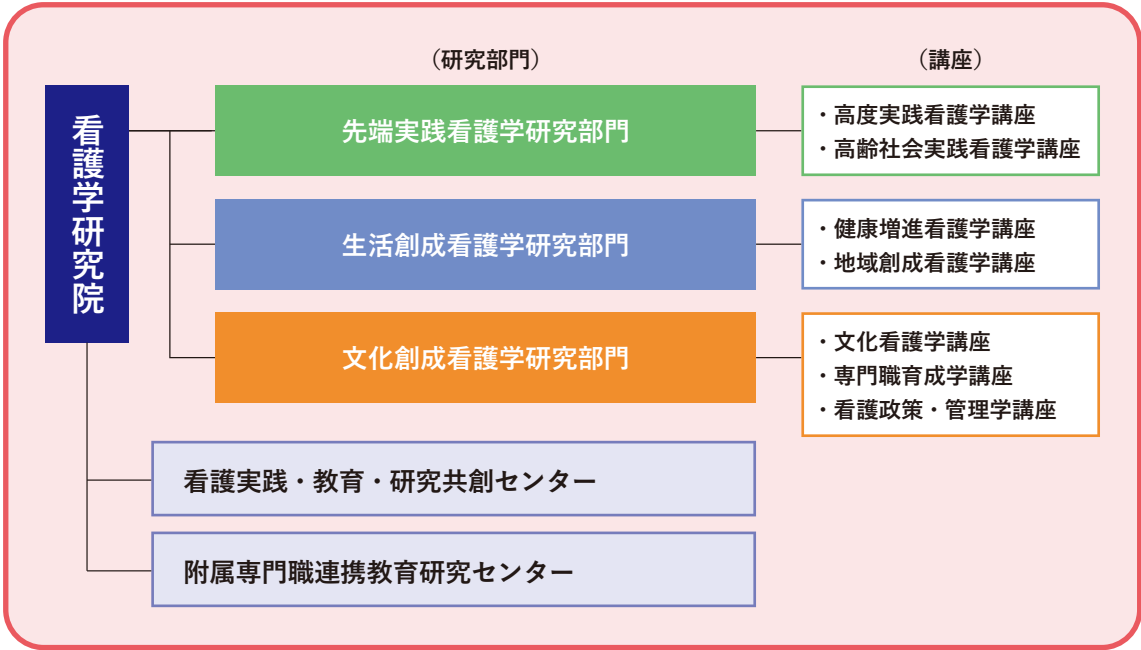
前期課程 専門科目	コンソーシアム 科目 10単位以上 他大学院の4単位は、博士前期課程の選択科目[修了要件]とすることができる
前期課程 共通基礎科目	
前期課程 看護研究演習	
前期課程 特別研究	
後期課程 専門科目	
後期課程 共通基礎科目	
後期課程 特別演習	
後期課程 特別研究 （災害看護に関する研究）	

博士（看護学）
Disaster Nursing Global Leader 付記

災害看護コンソーシアムは、共同災害看護学専攻（令和2年度をもって入学者の受入は停止）の後継プログラムとして、5大学のそれぞれの強みを活かした科目を互いに提供し、各大学院の人材育成を強化・補完するものとして新たにスタートするものです。



教員組織



博士前期課程

研究指導教員及び受入可能な研究テーマ一覧

※最新の情報は看護学研究科ホームページをご確認ください。
<https://www.n.chiba-u.jp/admission/graduate/theme.html>



看護学コース

◎印は令和9年3月31日で定年退職となる教員です。
●印は令和8年3月31日で定年退職となる教員です。

研究部門	職名	指導教員	受入可能な研究テーマ
先端実践看護学	教授	富岡 晶子	◆小児期・思春期・若年成人期のがん経験者の支援に関する研究 ◆小児慢性疾患患者の成人移行期支援に関する研究 ◆健康障害を持つ子どもと家族への看護に関する研究
	教授	眞嶋 朋子●	◆危機的状況にある急性期・終末期患者に関する研究 ◆心臓手術を受ける患者の看護および心臓リハビリテーションを受ける患者の看護に関する研究 ◆終末期患者および家族への看護に関する研究

研究部門	職名	指導教員	受入可能な研究テーマ
先端実践看護学	教授	増島 麻里子	◆がん患者と家族に関する研究 ◆リンパ浮腫に関する研究 ◆エンドオブライフケア、アドバンスケアプランニングに関する研究
	教授	酒井 郁子●	◆長期ケア、回復期ケアの質の評価と改善方策の開発 ◆リハビリテーション看護のシステム化と効果検証 ◆高度実践看護に必要な専門職連携実践の理論化
	教授	五十嵐 歩	◆老年看護学に関する研究 ◆長期ケア・地域包括ケアシステムに関する研究 ◆介護保険サービスに関する研究
	准教授	佐藤 奈保	◆疾患・障害をもつ子どもとその家族に関する研究 ◆健康問題をもつ親・養育者と生活する子どもに関する研究 ◆家族の多様性と子育て支援に関する研究 ◆災害時要配慮者とその家族に対する支援に関する研究
	准教授	黒田 久美子	◆慢性疾患看護、高齢者ケア ◆セルフケア支援 ◆上記に必要な継続教育方法
	講師	小川 俊子	◆医療関連感染対策に関する研究 ◆高齢者の口腔衛生管理に関する研究 ◆誤嚥性肺炎予防に関する研究 ◆看護ケアのエビデンスに関する研究
	助教	佐野 元洋	◆循環器看護に関する研究 ◆ICTを活用した心不全管理、地域連携に関する研究 ◆心臓リハビリテーションの効果に関する研究 ◆クリティカルケアに関する研究
	助教	佐伯 昌俊	◆看護補助者の役割に関する研究 ◆職種間協働に関する研究 ◆タスク・シフト／シェアに関する研究 ◆高度実践看護師の役割開発に関する研究



研究部門	職 名	指 導 教 員	受 入 可 能 な 研 究 テ ー マ
生活創成看護学	教 授	大 内 基 司	♦生体から得られた情報による量的研究 ♦服薬に関する研究 ♦老年学研究
	教 授	前 原 邦 江	♦親役割獲得への看護に関する研究 ♦周産期の家族への支援に関する研究 ♦母性看護および助産師教育の実践知に関する研究
	教 授	池 崎 澄 江	♦保健・医療・介護サービスに関する研究 ♦看護・介護職の労働職場環境に関する研究 ♦施設や在宅におけるエンドオブライフケアに関する研究
	教 授	田 上 美 千 佳 ◎	♦精神疾患患者とその家族への支援 ♦精神保健問題のある人とその家族への支援 ♦精神保健医療看護の質の向上に関する研究
	教 授	石 丸 美 奈	♦地域での生活支援と地域づくりに関する研究 ♦予防的な看護に関する研究 ♦地域看護学・公衆衛生学の教育に関する研究
	教 授	石 橋 み ゆ き	♦学生と市民が学び合う災害準備教育の社会実装に関する研究 ♦復興に向けた被災地支援および受援に関する研究 ♦退院支援・地域連携に関する研究 ♦高齢者ケアおよび地域・在宅看護学に関する研究
	教 授	諏 訪 さ ゆ り	♦認知症ケア ♦地域包括ケア ♦在宅ケアにおけるテクノロジーの活用と倫理
	准教授	飯 田 貴 映 子	♦高齢者長期ケア施設における看護・介護 ♦高齢者の緩和・エンドオブライフケア ♦看護・介護労働力の国際間移動
	講 師	雨 宮 歩	♦糖尿病性足潰瘍予防・ウェルナー症候群の足潰瘍予防・フットケア ♦ケアに活かすための生体計測（歩行・睡眠・活動量・動作など） ♦（身体拘束を減らすための）看護技術・機器・ケア用品の開発
	助 教	鈴 木 美 央	♦精神健康問題を持つ人やその家族の病院や地域における支援 ♦精神疾患をもつ人の認知機能やコミュニケーションに関する支援 ♦精神疾患をもつ人の症状管理やリカバリーに関する支援 ♦学生や働く人のメンタルヘルスに関する支援

研究部門	職 名	指 導 教 員	受 入 可 能 な 研 究 テ ー マ
文化創成看護学	教 授	中 山 登 志 子	♦看護基礎教育および看護系大学院の教育および学習に関わる研究 ♦看護職者を対象に医療機関や看護継続教育機関等が提供する教育に関わる研究 ♦看護実践・教育の質向上や看護職者個々の職業的発達に資する研究
	教 授	和 住 淑 子	♦看護基礎教育／看護継続教育プログラムの開発・評価 ♦看護管理実践における看護理論の適用と評価 ♦看護政策過程の構造分析と政策提言
	教 授	横 田 慎 一 郎	♦看護分野でのリアルワールドデータ利活用に関する研究 ♦看護分野での情報システムや人工知能の開発と社会実装に関する研究 ♦看護分野でのIT 人材の育成に関する研究
	准教授	斉 藤 し の ぶ	♦看護技術教育に関する研究 ♦看護理論の実装化に関する研究 ♦看護学生の専門的思考の促進と教育評価 ♦看護実践の質向上に関する研究
	准教授	銭 淑 君	♦IoT を活用する生活スタイルと健康状態についての過程的研究 ♦CoDesign の概念を活用する看護学的研究 ♦Liberal Democracy の概念を活用する看護学的研究 ♦Deliberative Democracy の概念を活用する看護学的研究 ♦Participatory Democracy の概念を活用する看護学的研究
	准教授	杉 田 由 加 里	♦地域看護・公衆衛生看護におけるマネジメント実践と人材育成に関する研究 ♦地域におけるケアシステムの構築に関する実践と人材育成に関する研究 ♦生活習慣病予防および介護予防に関する保健事業 ♦高齢者のヘルスプロモーションに関する研究
	講 師	飛 世 真 理 子	♦看護基礎教育および看護継続教育の質向上に関する研究 ♦感染予防行動や認識に関する研究 ♦感染予防に向けた教育手法の開発
	講 師	野 崎 章 子	♦レジリエンスとメンタルヘルスに関する研究 ♦児童青年期の精神保健および看護に関する研究 ♦国際保健および国際精神保健看護学に関する研究 ♦性的多様性や移民等の多文化的背景を有する人々へのヘルスケアに関する研究 ♦ソーシャルイノベーションに資する看護実践に関する研究
	講 師	飯 野 理 恵	♦公衆衛生看護の機能と特質に関する研究 ♦地区診断に関する研究 ♦住民との共働による生活習慣病予防活動に関する研究 ♦母子保健に関する保健事業
	助 教	ニ ャ マ ザ オ ア モ ス ティ ナ シ	♦糖尿病性足潰瘍 ♦手指衛生及び感染制御・予防



看護実践学コース 看護管理学プログラム

研究部門	職 名	指 導 教 員	受 入 可 能 な 研 究 テ ー マ
先端実践看護学	准教授	黒 田 久 美 子	❖急性期病院における看護管理 ❖慢性疾患患者・高齢者への看護ケアサービス ❖医療保健福祉機関における看護職の人材開発
	講 師	小 川 俊 子	❖医療関連感染対策に関する研究 ❖高齢者の口腔衛生管理に関する研究 ❖誤嚥性肺炎予防に関する研究 ❖看護ケアのエビデンスに関する研究

研究部門	職 名	指 導 教 員	受 入 可 能 な 研 究 テ ー マ
生活創成看護学	教 授	前 原 邦 江	❖周産期におけるケアのエビデンスの実装に関する研究 ❖産後のケアの質向上に関する研究
	教 授	池 崎 澄 江	❖地域における保健・医療・介護のデータ解析 ❖医療・介護職の労働職場環境に関する研究 ❖高齢者施設・訪問看護ステーションの看護管理
	教 授	石 丸 美 奈	❖市民とケア提供者との協働を通じた地域づくり ❖保健師の人材育成と現任教育に関する研究 ❖研究における市民参画と協働
	教 授	石 橋 み ゆ き	❖急性期病院における退院支援・地域連携のシステムに関する研究 ❖地域・在宅(生活の場)における高齢者へのケア提供体制に関する研究 ❖地域における防災、減災推進に関する研究
	教 授	諏 訪 さ ゆ り	❖地域包括ケアシステムの質向上のためのケア管理、人材開発 ❖急性期病院、在宅ケアサービス、長期ケア施設における認知症ケアの質向上のためのケア管理・人材開発 ❖国際生活機能分類を基盤としたケアマネジメントと人材開発 ❖介護ロボットの開発と実装に関するケア管理、人材開発
	准教授	飯 田 貴 映 子	❖高齢者長期ケア施設における人的資源の管理 ❖高齢者の緩和・エンドオブライフケアの質向上のためのケア管理、教育的支援 ❖外国人看護・介護人材の適応に向けた支援

研究部門	職 名	指 導 教 員	受 入 可 能 な 研 究 テ ー マ
文化創成看護学	教 授	中 山 登 志 子	❖自組織の看護職者のニーズを反映した教育プログラムの立案 ❖看護職者の教育的機能向上に資する研究 ❖看護実践・教育の質向上や看護職者個々の職業的発達に資する研究 ❖看護理論を活用した看護の組織的推進
	教 授	和 住 淑 子	❖看護継続教育プログラムの開発と展開 ❖看護管理実践における看護理論の適用 ❖社会の変化に即した看護提供体制の構築
	教 授	横 田 慎 一 郎	❖看護分野でのリアルワールドデータ利活用に関する研究 ❖看護分野での情報システムや人工知能の開発と社会実装に関する研究 ❖看護分野でのIT 人材の育成に関する研究
	准教授	斉 藤 し の ぶ	❖看護系大学における組織文化の確立とFD デベロッパーの開発 ❖ IT 技術を活用した看護教育ラーニング・マネジメントに関する研究 ❖看護学教育カリキュラムマネジメントに関する研究
	准教授	銭 淑 君	❖看護実践／看護管理の構造のビジュアル化に関する研究 ❖IoT を駆使する教材開発に関する研究 ❖看護職の健康支援のプログラム開発に関する研究
	准教授	杉 田 由 加 里	❖地域におけるリーダー的な立場の看護職の実践と人材育成 ❖地域包括ケアにかかるマネジメント実践と人材育成
	講 師	飛 世 真 理 子	❖看護基礎教育および看護継続教育の質向上に関する研究 ❖感染予防行動や認識に関する研究 ❖感染予防に向けた教育手法の開発
	講 師	飯 野 理 恵	❖地域ケアシステムの構築に関する研究 ❖在宅看護実習の再構築に関する研究 ❖公衆衛生看護実践に関する研究

看護実践学コース 高度実践看護学プログラム

研究部門	職 名	指 導 教 員	受 入 可 能 な 研 究 テ ー マ
先端実践看護学	教 授	富 岡 晶 子	❖健康障害を持つ子どもとその家族に対する看護実践 ❖小児看護専門看護師の活動に関する研究
	教 授	増 島 麻 里 子	❖がん患者と家族に関わる研究 ❖エンドオブライフケア、アドバンスケアプランニングに関する研究 ❖専門看護師、特にがん看護専門看護師の活動に関する研究
	准教授	佐 藤 奈 保	❖疾患・障害をもつ子どもとその家族に対する看護実践 ❖小児看護専門看護師の活動に関する研究



看護実践学コース 特定看護学プログラム

研究部門	職 名	指 導 教 員	受 入 可 能 な 研 究 テ ー マ
先端実践看護学	教 授	眞 嶋 朋 子●	❖侵襲的治療後の包括的リハビリテーションに関する研究 ❖集中治療における看護師－医師関係、多職種連携に関する研究
	教 授	酒 井 郁 子●	❖手順書の実装における障壁と促進要因のモデル化 ❖特定看護師と医師の協働的パートナーシップの構築 ❖長期ケアにおける特定行為の効果評価
	教 授	五 十 嵐 歩	❖老年看護学に関する研究 ❖長期ケア・地域包括ケアシステムに関する研究 ❖介護保険サービスに関する研究
	助 教	佐 野 元 洋	❖循環器看護に関する研究 ❖ ICT を活用した心不全管理、地域連携に関する研究 ❖循環器領域における多職種協働に関する研究 ❖クリティカルケアに関する研究
	助 教	佐 伯 昌 俊	❖看護補助者の役割に関する研究 ❖職種間協働に関する研究 ❖タスク・シフト／シェアに関する研究 ❖高度実践看護師の役割開発に関する研究

	職 名	指 導 教 員	受 入 可 能 な 研 究 テ ー マ
生活創成看護学	教 授	大 内 基 司	❖看護における薬理学研究 ❖老年学研究
	教 授	田 上 美 千 佳◎	❖精神疾患をもつ人と家族のリカバリーに関連した薬物療法に関する研究 ❖精神疾患をもつ人の在宅ケアと特定看護行為に関する研究 ❖精神疾患をもつ人の再発予防につながる専門職連携とケア
	講 師	雨 宮 歩	❖糖尿病性足潰瘍予防・ウェルナー症候群の足潰瘍予防・フットケア ❖ケアに活かすための生体計測（歩行・睡眠・活動量・動作など） ❖身体拘束を減らすための看護技術・機器の開発 ❖看護ケア用品・機器の開発
	助 教	鈴 木 美 央	❖精神健康問題を持つ人やその家族の病院や地域における支援 ❖精神疾患をもつ人の認知機能やコミュニケーションに関する支援 ❖精神疾患をもつ人の症状管理やリカバリーに関する支援 ❖学生や働く人のメンタルヘルスに関する支援

研究部門	職 名	指 導 教 員	受 入 可 能 な 研 究 テ ー マ
文化創成看護学	講 師	野 崎 章 子	❖児童青年期の精神保健および看護に関する研究 ❖治療抵抗性精神疾患、摂食障害、強迫性障害等の高難度精神看護実践の向上に関する研究 ❖国際保健および国際精神保健看護学に関する研究 ❖性的多様性や移民等の多文化的背景を有する人々へのヘルスケアに関する研究
	助 教	ニ ャ マ ザ オ ア モ ス テ ィ ナ シ	❖糖尿病性足潰瘍 ❖手指衛生及び感染制御・予防

博士後期課程

研究指導教員及び受入可能な研究テーマ一覧

※最新の情報は看護学研究科ホームページをご確認ください。
<https://www.n.chiba-u.jp/admission/graduate/theme.html>



○印は令和10年3月31日で定年退職となる職員です。
◎印は令和9年3月31日で定年退職となる職員です。
●印は令和8年3月31日で定年退職となる職員です。

看護学コース

研究部門	職 名	指 導 教 員	受 入 可 能 な 研 究 テ ー マ
先端実践看護学	教 授	富 岡 晶 子	❖小児期・思春期・若年成人期のがん経験者の支援に関する研究 ❖小児慢性疾患患者の成人移行期支援に関する研究 ❖健康障害を持つ子どもと家族への看護に関する研究
	教 授	眞 嶋 朋 子●	❖危機的状況にある急性期、終末期患者に関する研究 ❖心臓手術を受ける患者の看護および心臓リハビリテーションを受ける患者の看護に関する研究 ❖終末期患者および家族への看護に関する研究
	教 授	増 島 麻 里 子	❖がん患者と家族に関する研究 ❖リンパ浮腫に関する研究 ❖エンドオブライフケア、アドバンスケアプランニングに関する研究
	教 授	酒 井 郁 子●	❖高齢者ケアEBP 実装システムの開発 ❖長期ケア施設におけるセンサリング技術の開発と実装 ❖長期ケア施設における人材開発および専門職連携教育／実践
	教 授	五 十 嵐 歩	❖老年看護学に関する研究 ❖長期ケア・地域包括ケアシステムに関する研究 ❖介護保険サービスに関する研究
	准教授	佐 藤 奈 保	❖疾患・障害をもつ子どもとその家族に関する研究 ❖健康問題をもつ親・養育者と生活する子どもに関する研究 ❖災害時要配慮者とその家族に対する支援に関する研究
	准教授	黒 田 久 美 子	❖慢性疾患看護、高齢者ケア ❖セルフケア支援 ❖上記に必要な継続教育方法
	講 師	小 川 俊 子	❖医療関連感染対策に関する研究 ❖高齢者の口腔衛生管理に関する研究 ❖誤嚥性肺炎予防に関する研究 ❖看護ケアのエビデンスに関する研究
	助 教	佐 野 元 洋	❖循環器看護に関する研究 ❖ ICT を活用した心不全管理、地域連携に関する研究 ❖循環器領域における多職種協働に関する研究 ❖クリティカルケアに関する研究

研究部門	職 名	指 導 教 員	受 入 可 能 な 研 究 テ ー マ
生活創成看護学	教 授	大 内 基 司	❖生体から得られた情報による量的研究 ❖服薬に関する研究 ❖老年学研究
	教 授	前 原 邦 江	❖親役割獲得への看護に関する研究 ❖周産期の家族への支援に関する研究 ❖母性看護および助産師教育の実践知に関する研究
	教 授	池 崎 澄 江	❖保健・医療・介護サービスに関する研究 ❖医療・介護職の労働職場環境に関する研究 ❖高齢者施設・訪問看護ステーションの看護管理

研究部門	職 名	指 導 教 員	受 入 可 能 な 研 究 テ ー マ
生活創成看護学	教 授	田 上 美 千 佳 ◎	❖精神疾患患者とその家族への支援 ❖精神保健問題のある人とその家族への支援 ❖精神保健医療看護の質の向上に関する研究
	教 授	石 丸 美 奈	❖市民とケア提供者との協働を通じた地域づくり ❖保健師のプロフェッショナルデベロップメント ❖地域看護学・公衆衛生学の教育手法の開発
	教 授	石 橋 み ゆ き	❖学生と市民が学び合う災害準備教育の社会実装に関する研究 ❖自然災害からの復興・復旧に向けた災害への備え、被災地支援および受援に関する研究 ❖退院支援・地域連携に関する研究 ❖高齢者ケアおよび地域・在宅看護学に関する研究
	教 授	諏 訪 さ ゆ り	❖認知症ケア ❖地域包括ケア ❖在宅ケアにおけるテクノロジーの活用と倫理
	准教授	飯 田 貴 映 子	❖高齢者長期ケア施設における人的資源の管理 ❖高齢者の緩和・エンドオブライフケアの質向上のためのケア管理、教育的支援 ❖外国人看護・介護人材の適応に向けた支援
	講 師	雨 宮 歩	❖糖尿病性足潰瘍予防・ウェルナー症候群の足潰瘍予防・フットケア ❖ケアに活かすための生体計測（歩行・睡眠・活動量・動作など） ❖（身体拘束を減らすための）看護技術・機器・ケア用品の開発

研究部門	職 名	指 導 教 員	受 入 可 能 な 研 究 テ ー マ
文化創成看護学	教 授	中 山 登 志 子	❖看護基礎教育および看護系大学院の教育および学習に関わる研究 ❖看護職者を対象に医療機関や看護継続教育機関等が提供する教育に関わる研究 ❖看護実践・教育の質向上や看護職者個々の職業的発達に資する研究
	教 授	和 住 淑 子	❖看護高等教育政策の立案・評価に関する研究 ❖看護基礎教育・看護継続教育プログラム開発に関する研究 ❖看護管理実践領域における理論開発
	教 授	横 田 慎 一 郎	❖看護分野でのリアルワールドデータ活用に関する研究 ❖看護分野での情報システムや人工知能の開発と社会実装に関する研究 ❖看護分野でのIT 人材の育成に関する研究
	准教授	斉 藤 し の ぶ	❖看護基礎教育に関する研究 ❖看護理論の実装化に関する研究 ❖看護学生の専門的思考の促進と教育評価 ❖看護実践の質向上に関する研究
	准教授	銭 淑 君	❖IoT を活用する生活スタイルと健康状態についての過程的研究 ❖Co-creation の概念を活用する看護学的な研究 ❖東洋医学概念と看護学を融合する研究
	准教授	杉 田 由 加 里	❖地域看護・公衆衛生看護・在宅看護におけるマネジメント実践・理論開発 ❖地域におけるケアシステム構築に関する実践・理論開発 ❖地域看護・公衆衛生看護・在宅看護における人材育成方法論の開発
	講 師	飛 世 真 理 子	❖看護基礎教育および看護継続教育の質向上に関する研究 ❖感染予防行動や認識に関する研究 ❖感染予防に向けた教育手法の開発
	講 師	野 崎 章 子	❖レジリエンスとメンタルヘルスに関する研究 ❖児童青年期の精神保健および看護に関する研究 ❖国際保健および国際精神保健看護学に関する研究 ❖性的多様性や移民等の多文化的背景を有する人々へのヘルスケアに関する研究 ❖ソーシャルイノベーションに資する看護実践に関する研究
	講 師	飯 野 理 恵	❖公衆衛生看護の機能と特質に関する研究 ❖地区診断に関する研究 ❖住民との共働による生活習慣病予防活動に関する研究 ❖母子保健に関する保健事業

研究院附属センター

千葉大学大学院看護学研究院には2つの附属センターがあります。これらは主たる専攻に関わらず、大学院生であれば誰でも参加することができます。

看護実践・教育・研究共創センター

<https://www.n.chiba-u.jp/center/>



センター長
わずみ よしこ
和住 淑子

当センターは、1982年（昭和57年）4月、調査研究、専門的研修等を行うとともに、看護系大学の教員等、看護学分野の調査研究に従事する者の利用に供することを目的として、国立大学唯一の看護学部を有する千葉大学に設置されました。設置以来30年以上にわたり、全国の看護系大学への支援および看護実践者を対象とした生涯学習支援を通して、看護の向上に向けた事業を行ってきました。こうした実績をもとに、2010年（平成22年）3月、文部科学大臣より看護学分野唯一の「看護学教育研究共同利用拠点」として認定されました。

以降、全国の看護系大学の教員、臨地実習を担当する国公私立大学病院等の医療施設の看護職を対象とした、各種研修事業、文部科学省からの補助を受けた各種大型プロジェクトに取り組み、成果を上げてきました。

そして、2021年4月より、これまでの知識提供型の研修事業の在り方を大きく転換し、「利用者相互のピア・コンサルテーション」を軸に事業を展開しています。さらに、2024年度からは、看護をとりまく環境の変化を見据え、「次世代育成力強化のための看護系大学FD推進拠点」事業を開始しました。

当センターは、教育・研究・実践の良循環を通して、山積する社会的課題の解決に看護学の立場から貢献し、すべての国民が自らの力を発揮して健康で幸せな生活を営むことができるよう、今後も活動を続けてまいります。この目的に向かって大学院生の皆様とも共創できることを心から楽しみにしております。

専門職連携教育研究センター（Interprofessional Education Research Center IPERC）

<https://www.n.chiba-u.jp/iperc/>



センター長
すわ さゆり
諏訪 さゆり



本学では、2007年から医療系3学部（医学部、看護学部、薬学部）および工学部が協働し、亥鼻IPEという専門職連携教育を展開してきました。この教育実績を基盤として、当センターは2015年（平成27年）1月1日、初代センター長、酒井郁子先生のもと、日本では他に類を見ない新しいスタイルの教育・研究・実践拠点として開設されました。これまでの第1フェーズでは、「亥鼻IPE（Interprofessional Education）」という千葉大学亥鼻キャンパスを中心とした教育・学習プログラムの充実を目指し、その取り組みから得た知見を広く発信することを通して、日本の保健医療福祉及び高等教育の発展に尽力してきました。

私たちの取り組みは保健医療福祉の領域や日本国内に限るものではありません。令和4年（2022年）度に文部科学省の「大学の世界展開力強化事業」の一つとして「グローバル地域ケアIPE+創生人材の育成（Global & Regional Interprofessional Education Plus Program：GRIP Program）」*に採択されました。GRIPでは、持続可能な開発目標（SDGs）の「目標3 あらゆる年齢のすべての人々の健康的な生活を確保し、福祉を推進する」ことを目指して、あらゆる国・地域において、自国でも他の国でも健康関連の社会課題に保健医療福祉も含めた専門職者ががともに取り組み、そこでの最適解を導き出すことができる自律した組織人の育成にも取り組んでいます。

今、多くの組織において、すべての構成員の人権が差別されことなく尊重され、一人一人の個性と能力を十分に発揮することができ、安心して所属できることが目指されるようになり、DEIB、すなわち多様性（Diversity）・公正性（Equity）・包摂性（Inclusion）・帰属（Belonging）の視点に立った様々な取り組みが行われています。千葉大学でも、令和6年（2024年）度に千葉大学DEIB（C-DEIBシーディーブ）推進宣言及び基本方針を策定しました。

これからの第2フェーズでは、保健医療福祉や組織を超えた専門職連携教育IPE・専門職連携実践IPCP（Interprofessional collaborative practice）を、日本国内はもとより、世界のあらゆる国・地域・組織を超えてDEIBを実現する方法論と位置づけます。これらの方法論が広く社会で実装されるよう、第1フェーズでの原点「亥鼻IPE」を大切にしながら、当センターの歩みを進めています。

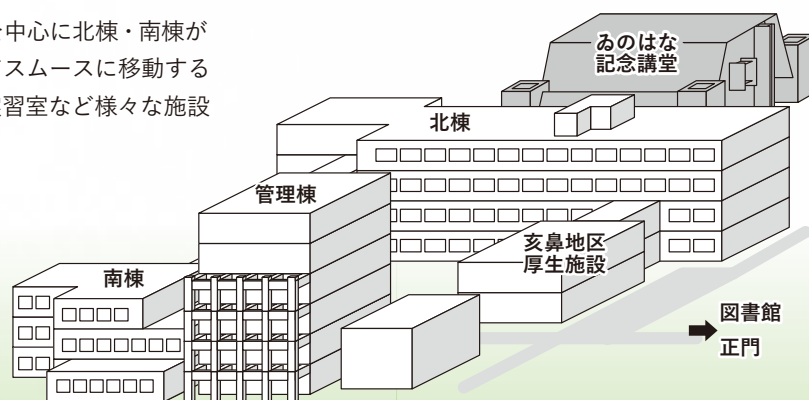
大学院生の皆様にもIPE、IPCPについてより深く学んでいただきたいと願っています。

キャンパス紹介

亥鼻キャンパスには、看護学部・医学部・薬学部の3つの学部と、附属病院があります。充実した設備はもちろん、四季折々の花が咲く自然豊かなキャンパスで研究を行うことができます。



看護学部・看護学研究科施設は管理棟を中心に北棟・南棟があります。それぞれの棟は繋がっていてスムーズに移動することが可能です。大講義室、会議室、実習室など様々な施設があります。



附属図書館亥鼻分館

専門書などが充実した3階建ての図書館。資料閲覧のほか、自習スペースとしても利用できます。



めのはな記念講堂

500人以上を収容可能な講堂。優れた音響性能を備え、講演や式典などに利用されます。



正門

看護学、医学、薬学の3学部が一体となったキャンパスの正門です。



看護・医療系総合教育研究棟

北棟、中棟、南棟の3つの建物からなり、講義室や研究室があります。各フロアにリフレッシュルームが設置されています。

各種制度

昼夜開講制について

近年、大学院における社会人の再教育への要望が高まっていますが、通常の方法のみで大学院教育を実施した場合、社会人はその勤務を離れて就学することが必要となるため、大学院教育を受ける機会が制約されがちです。このため、大学院設置基準第14条では、「大学院課程においては、教育上特別の必要があると認められる場合には、夜間その他特定の時間又は時期において授業又は研究指導を行う等の適当な方法により教育を行うことができる」旨規定され、社会人の就学に特別措置を行うことが配慮されています。

これらを踏まえ、本学大学院看護学研究科では、大学院での履修を希望する社会人に対して以下の教育方法の特例による教育を実施しています。

- ・月曜日から金曜日までの18時から21時10分、土曜日、夏季・冬季の休業期間中に開講される講義、看護学演習、特別研究の授業等を履修でき、研究指導も受けられます。
- ・履修計画については、指導教員のもとに作成します。

長期履修学生制度について

職業を有している等の社会人学生で、1年間または1学期間に修得可能な単位数や研究指導を受ける時間が制限されるため、本研究科の標準修業年限（博士前期課程は2年間、博士後期課程は3年間）を超えて在学しなければ課程を修了できないと考える者に対して、申請に基づき、大学が審査し、博士前期課程は最長4年間、博士後期課程は最長6年間の修業年限で在学し、計画的に課程を修了することにより学位の取得を認める制度です。

なお、長期履修学生として認められた期間の授業料は、標準修業年限の総額を在学学期で除した額を分割して支払うことになります。本制度を希望するものは、あらかじめ志望する指導教員に照会してください。

学生サポート窓口 亥鼻キャンパス「学生相談室」

場所は、看護・医療系総合教育研究棟北棟1階です。臨床心理士、グランドフェローが在室し、相談を受け付けています。学部生、大学院生、留学生など問いません。ハラスメント相談に関しては、特にプライバシーなど十分に考慮して相談対応しています。相談は予約優先になりますが、空いていれば予約がなくても相談できますので、お気軽にお立ち寄りください。予約の方法など、詳しい情報は「千葉大学ホームページ（学生相談）」をご参照ください。



各種制度

ティーチング・アシスタント／リサーチ・アシスタント

ティーチング・アシスタントは、優秀な大学院学生に対し学部や大学院の教育補助業務を行っていただく制度です。手当支給があり、学業に専念するとともに将来の指導者としてトレーニングの機会提供を図ることを目的としています。本研究科の修了生の中には大学教育に携わる者も多く、これらの経験が大学教員として就業する際に生かされるよう配慮されています。リサーチ・アシスタントは、優秀な博士後期課程在学者に対し、研究プロジェクト等に研究補助者として参画してもらい、若手研究者としての研究遂行能力の育成を図ることを目的とする制度です。



学費免除・奨学金制度

詳細は二次元バーコードよりWebサイトをご確認ください。

● 学費免除

千葉大学正規学生は、千葉大学入学料、授業料及び寄宿料の免除に関する規定に基づき授業料その他の費用の全額若しくは一部を免除する制度を利用できます。



● 奨学金制度【奨学金制度【独立行政法人日本学生支援機構奨学金・民間団体等奨学金】

日本学生支援機構の奨学金は、大学・短期大学・高等専門学校・専修学校（専門課程）および大学院で学ぶ人を対象とした、国が実施する貸与型の奨学金です。また、日本学生支援機構奨学金の他に、地方公共団体や民間育英団体が実施している奨学金制度もあります。



各種制度

研究生・委託研究生・科目等履修生

● 研究生・委託研究生

現在修士または博士学位を持ち、博士後期課程（博士学位）入試の受験を考えていて、特定の専門事項を専心研究しようとする者があるときは、選考のうえ研究生として入学することができます。なお詳細はホームページにてご確認ください。



● 科目等履修生

科目等履修生は、看護学研究科が開設する一又は複数の授業科目を履修することを志願する者があるとき、授業に支障のない限り、選考のうえ入学を許可するものです。その授業科目を履修し、考査に合格したときに所定の単位が与えられます。単位を与えられたときは、単位修得証明書を交付します。なお出願資格が博士前期課程及び博士後期課程の科目で異なりますので、詳細はホームページ掲載の出願要項をご確認ください。



● 特別聴講学生

5大学災害看護コンソーシアムを形成する高知県立大学、兵庫県立大学、東京医科歯科大学、千葉大学及び日本赤十字看護大学のうち、千葉大学以外の大学に令和3年4月以降に在籍し、各大学でコンソーシアム科目を受講可能と定められている学生が対象です。※コンソーシアム科目を受講可能かどうかについては、ご自身の本籍大学にお問い合わせください。

看護学研究院紹介動画

看護学研究院をこちらの動画で紹介しております。ご覧ください。



掲載ページアドレス
<https://www.n.chiba-u.jp/outline/movie.html>